

殿塚古墳・姫塚古墳
 発掘70年のあゆみ

昭和31年 殿塚古墳・姫塚古墳発掘調査。
 昭和33年 殿塚古墳・姫塚古墳を含む17基の古墳が、芝山古墳群として国指定史跡となる。
 昭和34年 芝山仁王尊・観音教寺により「芝山はにわ博物館」開館。
 昭和41年 成田市三里塚への新国際空港建設が閣議決定。
 昭和46年 殿塚古墳・姫塚古墳から出土した埴輪が千葉県指定有形文化財となる。
 昭和57年 第1回芝山はにわ祭開催。早稲田大学滝口宏教授が祭を監修。（下写真）



昭和60年 パリはにわ展の開催。（右写真）
 昭和63年 芝山町立芝山古墳・はにわ博物館開館。県道成田松尾線に「芝山はにわ道」と愛称が付けられ、沿道にはにわ像を57体設置。



平成23年 早稲田大学が九十九里地域の古墳調査を再開。埼玉県本庄市、大阪府高槻市を招いて「はにわサミット」開催。（右写真）

平成26年～27年 早稲田大学による出土埴輪の三次元計測調査。



平成28年 殿塚古墳・姫塚古墳発掘60周年記念事業として、早稲田大学會津八一記念博物館にて「甦る九十九里の埴輪群像—3D考古学の挑戦—」開催。（下写真）



令和3年 観音教寺から殿塚古墳・姫塚古墳出土埴輪や副葬品が芝山町へ寄託され、芝山町立芝山古墳・はにわ博物館をリニューアル。
 令和6年 殿塚古墳・姫塚古墳出土埴輪48点（殿塚30点、姫塚18点）が一括して重要文化財に指定。
 令和8年 殿塚古墳・姫塚古墳発掘70周年記念事業。



はにわの町、
 芝山のはじまり

芝山町がはにわの町と呼ばれるようになったのは、殿塚古墳・姫塚古墳の発掘があったから。この発掘はどのような経緯で、どのように進んだのでしょうか。

発掘の経緯

芝山仁王尊・観音教寺の濱名徳永住職（当時27歳）は、寺の文化事業として古墳調査を発案し、大学の恩師の紹介で早稲田大学の滝口宏教授（当時46歳）に調査を依頼しました。昭和30年10月、滝口教授は芝山町を訪れ、濱名住職と打ち合わせを行い、地域住民に古墳の価値を知ってもらうこと、出土遺物は保存館を建設して郷土の歴史を物語るものとして保存公開すること、学校の先生方の参加見学によって教育に資するようにすることを方針としました。また、両古墳は旧横芝町中台に所在していますが、殿塚古墳は芝山町民の方、姫塚古墳は観音教寺の檀家の方が地権者でした。

第一次発掘

昭和31年3月27日、最初は殿塚古墳を中心に発掘を行いました。円筒埴輪が部分的に出土するにとどまっていました。一方、姫塚古墳では30日に地元住民が、前方部中段の北西隅より形象埴輪（人物・馬）を発見しました。その日の発掘日誌には、調査員の士気は昂揚し、「過去

四日間の晩さんに較べて数倍おいしく御馳走になれた」と記されており、待望の成果だったことがわかります。その後は、姫塚古墳の埴輪列の探索に集中し、墳丘北側中段に大型で造形美あふれる40数体の形象埴輪列がほとんど原位置で発見されたのです。

また、4月6日には姫塚古墳前方部南側の横穴式石室から方頭大刀1振、直刀13振、刀子1点が出土しました。その後、4月8日に撤収作業が終了し、調査団の学生は全員帰校しました。発掘の成果は、「戦後最高のハニワ発見」「千古の謎をとく芸術品 輝かしい早大調査団の収穫」（千葉新聞）などと報道され注目されました。

第二次発掘

第二次調査は、4月28日から5月6日まで殿塚古墳を中心に行われました。後円部南側から横穴式石室が発見され、盗掘にあったためか副葬品は、金銅製耳環や銅碗、大刀などがまとまって置かれていました。同時に埴輪列の確認も進められましたが、北側中段にあったと思われる人物埴輪などは原位置をと



- ① 多くの住民が調査に協力した
- ②③ 姫塚古墳から出土した人物埴輪
- ④ 姫塚古墳の横穴式石室
- ⑤ 早稲田大学から新井田地区に送られた、調査に対する感謝状